

社説

蓋を自家用酒と全廢せざる

從來自家用酒は八十錢の釀札料を納むれば或る一二の營業者を除き何人にも一石まで醸造するを得たれども昨年自家用酒法を發布して直接國稅五圓以下の者は税金二圓にて一石まで又五圓以上十圓以下の納稅者は三圓にて一石まで八圓にて二石までと改めたり一段の進歩には相違なければ我輩は更に歩を進めて其全廢せざるを期す

京城特報 (五月五日)

露國士官備聘事件の真相

朝鮮の政略は常に寸暗黒なり一朝事の湧出するや流説百端殆んど捕提する所を知らず爲めに其實相を知る能はずして却て五里霧中に彷徨する者甚だ多し即ち今回の備聘事件の如き亦其一なり然れども自然の趨勢を察して徐らに前後の事情を事実に現出せしめたる所を觀れば豈に一道の光明其間に輝々たるものなからんや元來此備聘の件たる一朝一夕に突如せし問題にあらざりて露國が十年以前の計畫今僅に其一端を現出せり云ふも固より不可なし唯其事今日の備聘事件に直接の關係なきを以て之を除き専ら現在に於ける真相を抽出するを勉むべし今讀者の知るに便ならんことを欲して左の二段に區別して記する所あるべし

軍人老の

精まじめたる第一の問題たりしならん而して彼が四月二十一日に於て外部大臣と共に議院を議政府に提出せんと欲して之を外相に計り一も二もなく排斥せられたるより事世間の知る所となりたれども頗る此境遇に際しては已に或る二三の權勢と威力とを併有せる者の間には動かす可からざる者として決定せられ居たり遂に廿二日議院の會議となり其條約文案を備聘すべし兵士の種別に至ては今日未だ詳なるを知る能はずれ共條約文は十六條より成立し一箇年九萬八千餘圓を支拂ひ五年間備入るる等種々詳細なる規定あり兵士の種別は佐官三名尉官廿五名下士九十五名軍醫三名及び工兵樂隊治工等合せて百六十名(百六十八名とも云ふ)なりと云へば勿論初めに先づ備聘すべきや否やに就て討議し其可決したるを待て後條約文案其他人員に就き序を追ふて論ずべきは當然然れ共已に内閣決定せられたる事件にして且つ韓廷の事なれば是等の順序を定めずして議場に提出したる者の如し其會議に於て各大臣の意見は唯外部大臣李完用と法部大臣曹汝霖とを以て反對の意見を陳述したりと聞け其他大臣は何等の言論を發せしやを知らず而して此事件に就ては秘密の上に秘密を保ちたる事として之を知る者稀なりしが端なく世間に暴露せらるるに至るや頗る内外人の耳目を聳動し我加藤公使は廿五日を以て外部を訪問して其事實を確め翌二十六日を以て慶運宮に参内し親しく國王に謁見して上奏する所あり露公使も次で拜謁したりと云ひ内閣員の意見も皆區々に別れて頗る動搖し軍部大臣の如きは二十七日其局長及び親衛隊の上長官を官房に召集して何事か密議する所あり二十八日の夜(二十九日は軍部大臣缺席のため會議に至らず)三十日の夜と兩夜に於て議政府會議を重ねたれども其真相は殆んど之を知るに由なく已に可決せりと云ふ者あり反對論の多數に制せられて否決せりと云ふ者あり反對論の多數は疑ひなしと雖も兎に角決定に至らずして散會せりと云ふ者あり否な備聘の事は既に決定し唯人員の多少に就き議論あり十七名、二十七名、半減等種々の説ありたれども結局延期説に傾き閣下に上奏したりと傳ふる者あり其説く所區々にして殆んど信を措くに苦めり然るに議政府は本月二日附を以て參政府廷首の名にて軍部大臣曹汝霖に宛て左の指令を發せり曰く

Table with columns for currency types and amounts: 補助 (五圓), 補助 (十圓), 補助 (十二圓), 補助 (十五圓), 補助 (二十圓), 補助 (二十五圓), 補助 (三十圓), 補助 (五十圓), 補助 (六十圓), 補助 (七十圓), 補助 (八十圓), 補助 (九十圓), 補助 (百圓). Includes a small circular logo at the bottom left.